
傷

戸山羅花

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傷

【Nコード】

N1555P

【作者名】

戸山羅花

【あらすじ】

俺と美崎が初めて出会った頃。あの時は周りがどうでも良かった

.....

「うあー……終わった……俺の中で、今、人生が終わった……」

「何アホなこと言ってるのよ」

隣にいる美崎みさきがいう。

「だってお前、テストが終わったんだぜ？　こんなにいいことはないだろ」

「だからってだらけすぎよ」

そう言って俺の頭を叩く。

「って」

「ほら。早く帰りましょ」

「あ？　ああ、そうだなー」

さつさと準備を終えて帰る美崎を追って教室を出る。

俺と美崎は小学からの幼馴染で、中学二年になった今でも続いている。

「……………」

「どうしたの？」

難しい顔でもしていたのか、そう聞いてきた。

「ああ。ちつと昔のことを思い出しちゃってさ」

「……………ああ」

残念なことに、俺と美崎が最初に知り合ったのは「孤児院」であつた。

祖父や祖母もおらず、両親をいつぺんに失った俺。

大規模な交通事故で奇跡的に生き残った美崎。

「……………あの時ってさ、周りがどうでもよくて、ずっと泣いていたよな。お前」

「……そうね」

俺と美崎はほぼ同時に入ってきたが、医師の懸命なカウンセリングのおかげか、なんとか踏ん切りのついた俺と、未だに親を失ったシヨックから立ち直れなかった美崎。

「それで、あんまりいつまでも暗いままだったから友達も出来なくて……」

あの頃の後悔からか、唇を嚙んで言う美崎。

「それで、ずっと一人だと思っていたけど……。あんたがいてくれた」

「ま、今となつちや恥ずかしい限りだがな」

「それでも良かったのよ。……あの時は本当に一人だったからさ」

泣きそうになるのを悟られないようにするためか、また違った理由からか、こちらに目を向けずに言う。

「そっか……」

小さい頃の俺達には余りに酷な災い。故に美崎は未だに引きずっている。

「ダメだなあ……。私は未だに引きずってて……」

「いいんだよ。ゆっくりでも抜け出せば」

「……だよな」

そう。一番大事なのは、それをどれだけ軽いものにできるのか。

「押しつぶされちゃだめだけど、それを忘れてもいいけないことだと思っぜ？」

「あんたにしてはいい意見ね」

「だろ？」

二人して笑いあう。

「ん！　じゃあ今日はどっか行こうかな！」

「なんで!？」

「いいじゃない。あんたも来なさいよ」

「巻き込むな！」

そんな風に話しながら夕焼けの街を走る。

大切なものって当たり前のことでもあると思うんだよな。

「なにやってんのよ！ 早くしなさい！」

「おう！」

先をいく美崎に返事をする。

こんな日々はこれからもずっと続いていくだろう……

あいつが、自分の過去を乗り越えるまで……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1555p/>

傷

2010年11月27日02時55分発行